

第1学年2組 社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時：平成30年6月22日(金)4校時

1. 単元名 「中国にならった国家づくり」

2. 単元について

(1)単元について

本単元は、中学校学習指導要領歴史的分野の目標(3)

「歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、多民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。」

を受け、歴史的分野の内容(2)イ、ウに基づき設定したものである。

この単元では、律令国家の確立に至るまでの過程、撰閣政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。また、日本の古代の文化が国際性豊かな文化から国風文化へと変容していく過程を、仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを通して理解させることをねらいとしている。

本単元では、天皇や貴族を中心とする律令国家が確立していく過程を学習する上で、中国などの東アジア周辺諸国とのつながりを捉えておくことが重要であると考え。そこで、遣唐使の果たした役割について考えさせていくことで、当時の日本が政治や文化などあらゆる面で中国や東アジア周辺諸国の文物や制度を積極的に取り入れ、発展していったことに気付かせたい。また、遣唐使の派遣を停止したことについて、それまでの遣唐使の果たしてきた役割を基に考えさせることで、外国の制度や文物を学ぶ価値、様々な人々の立場から歴史的事実を見つめさせることができる単元であるといえる。

(2) 生徒の実態

本学級は、男子14名、女子12名、計26名のクラスである。事前アンケートでは、歴史的分野の学習について、「好き」37%、「どちらかといえば好き」33%、「あまり好きでない」22%、「好きでない」7%と回答しており、歴史的分野への興味関心は高いといえる。歴史的分野の学習に対して興味のある生徒は、昔の時代や活躍した人物について自分が知らないことを追及していくことや、資料を使って調べることが面白いと回答している。一方で、覚える事が多いということに苦手意識をもっている生徒は52%もいる。また、自分の考えをまとめたり文章にしたりすることに関しては、37%の生徒が苦手と回答しており、自分の考えを伝えたり説明したりすることに抵抗を感じている生徒も44%いる。このことから、資料から読み取ったことをまとめたり、発表したりするといった活動には慣れていない生徒が多いことがうかがえる。しかしその反面、資料から読み取ることは81%の生徒が好きと答えている。

そこで、資料を基に考えさせる活動を多く取り入れ、意欲的に取り組んでいる生徒を学習リーダーにして説明させたり、他者の考え方を参考にして自分の考えを書いたりするような活動を取り入れてきた。入学して約3ヶ月が経ち、班内での人間関係も緊張がほぐれ、顔を近づけて話し合うことができるようになってきた。その結果、資料を読み取って自分の考えを書き、それを伝える活動に少しずつではあるが向上が見られている。

(3) 指導について

以上をふまえて、本単元では、「つかむ」の過程において、まず、国家とはどのような状態かを予想させる。その予想を基に、単元を貫く課題として「日本という国は、どのようにつくられていったのだろうか。」を設定する。次に「追究する」の過程において、聖徳太子が目指した政治について調べさせる。平城京では、貴族や僧の間での勢力争いが激しくなり、政治が混乱していたために新しい都で政治を立て直そうとしたことを理解させる。また、藤原氏が摂政、関白といった官職を独占し、撰閣政治を行ったことを理解させるとともに、唐の律令制度を基本としながら日本に合った制度に変化していたことを習得させたい。その後、文化の国風化が進んだことについてその背景を考察すること

で、当時の東アジアとのつながりや国内政治の発展について考えを深めさせたい。最後に「まとめる」の過程において、この学習した内容を活用させることで、当時の日本が政治や文化などあらゆる面で中国や東アジア周辺諸国の文物や制度を積極的に取り入れ、発展していったことを理解させ、古代の日本の特色を捉えさせたい。

3. 単元の目標

(1) <社会的事象への関心・意欲・態度>

- ・律令国家の確立と天皇や貴族の政治の展開、国際的な要素を持った文化と文化の国風化など、古代までの歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追求させるとともに、古代までの文化遺産を尊重することができる。

(2) <社会的な思考・判断・表現>

- ・律令国家の確立に至るまでの過程などについて多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現するとともに、仏教伝来の影響、仮名文字の成立について多面的・多角的に表現することができる。

(3) <資料活用の技能>

- ・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめるとともに、仏教伝来とその影響、仮名文字の成立などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。

(4) <社会的事象についての知識・理解>

- ・大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したこと、国際的な要素を持った文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解することができる。

4. 単元の評価規準

単元「(2)イ 中国にならった国づくり」の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
①律令国家の確立と天皇や貴族の政治の展開、国際的な要素を持った文化と文化の国風化など、古代までの歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追求し、古代までの特色をとらえようとするとともに、古代までの文化遺産を尊重しようとしている。	①班田収授法と墾田永年私財法が定められた理由を、具体的な制度上の目的を中心にして適切に表現している。 ②藤原氏が権力を独占することができた理由を、様々な資料を関連付けて考察し、表現している。 ③文化が国風化した理由を、代表的な文化財の特色と関連付けて多面的多角的に考察し、表現している。 ④律令国家の確立に至るまでの過程を考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①律令制度のしくみや地方政治のしくみを、図や資料などから適切に読み取っている。 ②藤原氏が権力を握り貴族の政治が展開されるようになった理由を、様々な資料を収集し適切に選択して活用するとともに、考察した結果を適切にまとめている。	①聖徳太子が行った政策と目的を、隋との結びつきと関連付けて理解している。 ②律令制度による地域支配の中での農民の生活の様子を理解している。 ③国際的な文化が栄えた背景と特色を理解し、今に伝わる文化財などの知識を身に付けている。

5. 指導と評価の計画(全7時間)

学習課程	時間のねらい ()内は時間	評価基準				評価方法
		関	思	技	知	
学習問題をつかむ	(第1時)「ヤマト王権と仏教伝来」 ・ 聖徳太子の政治や大化の改新の過程から、大王中心の中央集権国家を目指したことを理解する。	①			①	・ 発言内容、態度 ・ 自己学習カード
	【単元を貫く MQ】 「日本」という国は、どのようにつくられていった？					
【本時の MQ】 聖徳太子は、日本をどのような国にしたかった？						
追究する	(第2時)「律令国家をめざして」 ・ 中央集権国家の建設が、戸籍や律令の制定によって完成したことを資料から読み取る。			①		・ 発言内容 ・ 自己学習カード
	【本時の MQ】 天智天皇と天武天皇の政治により、日本はどのような国に変わった？					
	(第3時)「律令国家での暮らし」 ・ 班田収授法と墾田永年私財の法が定められた理由について考察する。 ・ 律令制度による地域支配の中で、農民の生活はどのようなものであったか理解する。		①		②	・ 発言内容 ・ 自己学習カード
	【本時の MQ】 どのような土地制度が作られ、人々はどのような生活をしていた？					
	(第4時)「大陸の影響を受けた天平文化」 ・ 奈良時代の文化の特色について、海外文化の受容という面と仏教文化という面で理解する。				③	・ 発言内容 ・ 自己学習カード
	【本時の MQ】 天平文化とはどのような文化で、なぜ生まれた？					
(第5時)「権力をにぎった貴族たち」 ・ 藤原氏が権力を独占することができた理由を、様々な資料から読み取ったことを関連付けて考察する。		②	②		・ 発言内容 ・ 自己学習カード	
【本時の MQ】 藤原氏は、どうやって政治を独占する大きな力を持つことができた？						
(第6時)「唐風から日本風へ変わる文化」・・・本時 ・ 文化が国風化した理由を、代表的な文化財の特色と関連付けて考察する。		③			・ 発言内容 ・ 自己学習カード	
【本時の MQ】 国風文化とはどのような文化で、なぜ天平文化から変化した？						

考え・まとめ	(第7時) 「学習課題のまとめ」 ・ 学習課題を通して、単元を貫く問いをまとめる。		④		・ 発言内容 ・ 自己学習カード
	<p>【単元を貫く MQ】 「日本」という国は、どのようにつくられていったのだろうか？</p> <p>【単元を貫く MQ に対する解答例】 聖徳太子は、豪族同士が対立してバラバラだった日本を、天皇という存在を意識させて天皇のもとに1つにまとまる国を目指した。その後、天智天皇と天武天皇により中国の律令制度になった国づくりが行われ、中央集権国家としての土台が整えられた。 律令制の下での人々の生活は、戸籍により管理された土地に基づいた税制による生活となり、全国の土地と人民が中央政府に管理されるしくみが出来上がった。これにより、「日本」という一つのまとまった国家が出来上がったと言える。 しかし、口分田の乱れにより公地公民制度が崩れはじめ、都が平安京に移るなかで貴族や寺社が荘園を持ち始め、政治にも強い影響力を持つようになった。その結果、地方の政治も乱れ、再び中央集権国家のしくみが崩れていくようになった。</p>				

6. 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・文化が国風化した理由を、代表的な文化財の特色と関連付けて多面的多角的に考察することができる。

(社会的な思考・判断・表現)

(2) 観点別評価の進め方

観点	「十分満足できる」生徒の状況(A)	「努力を要する」(C)生徒への手立て
思考 判断 表現	文化が国風化した理由について、国風文化の代表的な文化財を基に国風文化の特色を読み取り、日本風の文化が生まれた理由を当時の国内の状況と関連付けて考察し、遣唐使が果たした役割と、国風文化を生み出すことができた国内の状況をふまえて適切に記述するとともに、歴史的な流れを理解して説明している。	代表的な文化財の資料から天平文化と国風文化の違いを整理させる。「大陸の影響を受けていない日本風の文化であること」など、国風文化の特色を確認させる。 その上で、「なぜ大陸の影響を受けなくなったのか。反対に、今まではなぜ影響を受けていたのか」など、そこから国内の状況との関連を探するための助言をする。

【本時のMQに対する解答例】

国風文化は、大陸風の文化を基礎にしながら日本の貴族の生活や好みに合わせた日本独自の文化として生まれた。貴族の住居として寝殿造が作られ、服装も日本風に変化した。漢字を崩した仮名文字が生まれ、日本語の発音を表現しやすくなり、枕草子や源氏物語などのすぐれた文学作品が生まれた。唐の力が弱まり遣唐使を停止したことや、摂関政治により国内の政治が安定して自分の国への関心が高まったこと、貴族の生活にゆとりがでて教養面へ目が向いたことにより、政治と文化で独自の動きをするようになり国風化が進んだ。

(3) 準備物

学習ノート、自己学習カード、PC、プロジェクター

(4) 研究主題との関連

本時の内容は、「教えて考えさせる場面」を設定するために、まず初めに「国風文化の特色」を説明して理解させた後、特色の理解だけで終わらず、なぜ文化の国風化が進んだのかという背景を考えさせることを理解深化問題として設定した。文化の国風化が進んだ理由について、国風化を進めることが出来た国内の背景を考えさせることで、理由の多面的多角的な考察へつなげることをねらいとした。

また、クラス内には低学力、低意欲の生徒が多いという現状もある。中学1年生の学習につまずかせないために、ペア活動、グループ活動を通して相手に教えてもらうことで学習への参加を促したい。低学力の生徒でも全員が参加できるような発問を工夫し、興味を持って学習できることを目指して本時の学習を設定した。

	教師の説明 課題提示	主な発問 (●) と生徒の反応 (・)	教師の支援 (・) と 評価 (※)
教 え る	1 予習の確認 2 説明 (15分)	●予習語句 国風文化 仮名文字 寝殿造	・肯定的な評価言をかける。
1 5 分	【学習課題】国風文化はどのような文化だろう。なぜ天平文化から変化したのだろう。		
	①国風文化は日本風の文化であり、大陸の影響を強く受けた天平文化から大きく変化した。	●国風文化の特色は何か。 ・国風文化は天平文化と違い、大陸の影響を受けていない日本独自の文化である。	・天平文化と比較させ、違いを意識させる。 ・貴族の文化ということをおさえておく。
	②国風文化には日本独自の文字「仮名文字」が使われている。	●2つの文章は、どちらが読みやすく分かりやすいか。 ・平仮名の方が分かりやすい。	・気持ちを表現する文は漢字と平仮名どちらが伝わりやすいか体感させる。
	③仮名文字が生まれたことで、様々な文学作品が生まれた。	●仮名文字があると、どんな良い点があるか。 ・文章が書きやすい。 ・人物の気持ちを表現しやすい。	・仮名文字は現代の文学作品と同じであり、日本独自のものと気付かせる。
考 え さ せ る	3 理解確認 (10分)		
	【理解確認問題】文化の国風化が進んだ「理由」を考える。		
3 0 分	①既習事項の確認。 ②遣唐使の廃止と同じ頃から、国風文化が栄え始めている。 ③唐の勢力が衰退し、多くの危険をおかしてまで遣唐使を派遣する必要は無くなった。	●天平文化が生まれたきっかけは何だったか思い出そう。 ・シルクロードや遣唐使により外国の影響を強く受けた。 ●国風文化が生まれるきっかけとなる出来事を年表から探そう。 ・遣唐使の廃止。	・既習事項を確認させる。 ・天平文化が発展した理由と比較させて、大陸と日本との関係が切れる出来事を探させる。
4	理解深化 (20分)		
	【理解深化問題】文化の国風化を進めることができた「背景」を考える。		
	①遣唐使の廃止によって、自国への関心が高まり、政治と文化において日本独自の動きをするようになった。 ②摂関政治により政治が安定し、貴族は文化への関心を高めた。	●代表的な文化財は、なぜこの時代に生まれたのだろう。 社会の様子と中心になった人という視点で考えよう。 ①寝殿造・・権力と富を手にした貴族の生活に合う ②文学作品・・女性が教養高める宮廷文学の発達 天皇家との結婚 ・貴族による摂関政治が栄え、戦乱がなく、平和な世の中だった。	・社会の様子や活用した人々など、考える視点を複数与える。 ・国風文化の中心は貴族であることからこの時代は貴族の摂関政治の時代だと気づかせる。

	③国風文化は、天平文化を基礎としながら国風化が進んだ文化である。	<ul style="list-style-type: none"> ・国内が安定し、自国に意識を向けるだけのゆとりができた。 ・大きな権力を手にした貴族はゆとりのある生活を送り、文化への関心が高まった。 ・貴族は生活にゆとりがあり、教養が重視されるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遣唐使の廃止はあくまできっかけのひとつであり、国内の状況にも理由があったことをおさえる。
自己評価 5分	5 自己評価（5分） ①自己学習カードに記入	●国風文化はどのような文化で、なぜ天平文化から変わったのだろうか。	※生徒の記入解答例については、上記「6本時の学習指導」の(2)解答例を参照。